

# ご挨拶



## 日本武藝躰道三代宗家 祝嶺 正献

第31回全国高等学校、並びに第34回全国少年少女躰道優勝大会の開催おめでとうございます。震災からの一年を経て世の中は大きく変わり、なに不自由なく送る日常生活へ感謝をしない日はありません。大会開催の準備には、多くの保護者、後援者の皆様からご支援を賜りましたことに厚く心よりお礼を申し上げます。

さて、オリンピックの年ということもあり、2012年の夏はイギリスに注目が集まります。戦争で負傷した兵士たちのリハビリをきっかけに始まったと言われるパラリンピック。芸術、文化の世界祭典という観点から2004年のアテネで再開されたカルチュラルオリンピック。健全者が完成度、到達度の高さや記録の更新で競い合う一般的なスポーツとしての側面だけでなく、多様な価値観を背負った205の参加国による国際イベントです。

躰道は洋の東西に広がった活動の拠点で40数年の歴史を積み重ねてきており、武道として日本から広められ、多言語、多文化圏に根付き、それぞれの風土にあった形で育まれてきました。歴史、規模こそオリンピックに及びませんが、たった40年の間に多種多様な環境に恵まれ、人々の生活に快く受け入れられ今日に至っています。

オリンピック開催で賑わうロンドンには、また、世界最大級を誇る大英博物館があります。海を渡り集められた諸外国の歴史的文化的文化財800万点の中に、日本刀、浮世絵といった、日本関連の展示物はおおよそ300点。常時展示されていないものまで合わせるとコレクションの数は3万点にも上ると言われています。植民地時代の略奪により集められたとの酷評もあり、郷土への所蔵品返還を求められる問題もあるようですが、それらが一堂に集められていたからこそ、今日まで大衆の目に触れる状態に管理され、良好な保存状態が維持されていることも事実です。

躰道もまた、人々の目に触れ、愛好されることによって価値を高めてきましたが、この先、多国籍が一堂に集まる場で更に多くの人種、信条、考え方を異にする人々の目に触れ洗練されて行くことと思われまます。まだまだ文化や芸術の域に達したとは言い切れないものの、言葉の壁を越えて国境を渡り、戦いを超えた視点から自己の鍛錬を目指そうという躰道の価値観が、日本の未来を背負った少年少女、高校生の皆さんの将来の展望に役立つことを切に願います。夏休みも半分を過ぎました。全国大会出場に取り組んできた毎日の努力が最良の結果となることをお祈りし、大会開催へのご挨拶と致します。